

伊丹福音ルーテル教会 顕現後第二主日礼拝のしおり

2022年1月16日

前奏

招きのことば：詩編 36 編 6-11 節

主よ、あなたの慈しみは天に あなたの真実は大空に満ちている。
恵みの御業は神の山々のよう あなたの裁きは大きいなる深淵。
主よ、あなたは人をも獣をも救われる。神よ、慈しみはいかに貴いことか。
あなたの翼の陰に人の子らは身を寄せ あなたの家に滴る恵みに潤い
あなたの甘美な流れに渴きを癒す。
命の泉はあなたにあり あなたの光に、わたしたちは光を見る。
あなたを知る人の上に 慈しみが常にありますように。
心のまっすぐな人の上に 恵みの御業が常にありますように。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙禱を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

神様は私たちの人生を豊かに祝福してくださいます。家庭の喜びのときにもそこに共にいてくださいます。そして、私たちが罪を赦されたものとして 安心して共に 幸せをつくっていくことができるように 導いてくださいます。今週も神様からいただいたいいのちをもって、よろこんで神様と人々に役立って歩みます。どうぞ導いてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：第1コリント12章1-11節

兄弟たち、霊的な賜物については、次のことはぜひ知っておいてほしい。あなたがたがまだ異教徒だったころ、誘われるままに、ものの言えない偶像のもとに連れて行かれたことを覚えているでしょう。ここであなたがたに言っておきたい。神の霊によって語る人は、だれも「イエスは神から見捨てられよ」とは言わないし、また、聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」とは言えないのです。賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です。一人一人に“霊”の働きが現れるのは、全体の益となるためです。ある人には“霊”によって知恵の言葉、ある人には同じ“霊”によって知識の言葉が与えられ、ある人にはその同じ“霊”によって信仰、ある人にはこの唯一の“霊”によって病気をいやす力、ある人には奇跡を行う力、ある人には預言する力、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言を語る力、ある人には異言を解釈する力が与えられています。これらすべてのことは、同じ唯一の“霊”の働きであって、“霊”は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださるのです。

福音書朗読：ヨハネ2章1-11節

三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、イエスの母がそこにいた。イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。わたしのときはまだ来ていません。」しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いついたら、

そのとおりにしてください」と言った。そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあった。いずれも二ないし三メートル入りのものである。イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。イエスは、「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われた。召し使いたちは運んで行った。世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかったので、花婿を呼んで、言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったころに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

讚美歌 301 番

1. 山べに向かいてわれ 目をあく 助けはいずかたより 来たるか
あめつちの御神より 助けぞ われに来たる
2. **み神は 汝(なれ)の足を 強くす み守りあれば汝は 動かじ**
御民をば 守るもの まどろみ 眠りまさじ
3. み神はあだを防ぐ 盾なり 汝が身を常に守る かげなり
夜は月、昼は日も 汝をばそこなうまじ
4. **み神は災いをも 避けしめ 疲れし魂をも 休ます**
出ずるおり、入るおりも 絶えせず 汝(なれ)を守らん アーメン

説教：「最初のしるし」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

私たちは出来事や出会いの中に神様の導きを感じることがあります。目の前で扉が次々に開かれていくような不思議な体験をします。もうだめだ、と力尽きそうなとき、神様の偉大な助けによって窮地を脱することもあります。苦しみに会うと、自分の不真実さを知っている私たちは、自分のしてしまった何かのバチが当たっているのではないかと絶望してしまうことがあります。また、神様の恵みを受けとめきれない私たちは、自分の力や知恵でどうにもならないということを感じ知らされると、もうお手上げだ、と希望を捨ててしまいます。しかし、あなたの不信実を赦すため、あなたの力や知恵によらず、イエス・キリストの身代わりの十字架と復活によって、神様はあなたの罪を赦して新しいいのちを与えてくださいます。それほどあなたを大切にしてください。苦しい中で自分の中の力から目を神様に向けて、助けてください、と叫ぶとき、イエス様の故にあなたを赦し、神の子として導いてくださいます。私たちは日常の暮らしの中で、ことあるごとに自分の不信実を示され、そしてイエス様への信仰を

新たにされます。背伸びをして、いいところを神様や人々に見せなくても、不信実で不信仰な私たちをご存じのイエス様が、御名によって、すなわちご自分の責任を持って、私たちを赦し、新しくし、御名のみ栄えにふさわしく導いてくださいます。やっぱりイエス様は愛とただしさに満ち溢れたお方だとわかるようにしていただきます。

ガリラヤ地方の小さな村、カナというところで嬉しい結婚式がありました。イエス様は、バプテスマのヨハネから洗礼を受けた後で次々に召された弟子たちを連れて列席しておられました。

バプテスマのヨハネの弟子だったアンデレは、ヨハネに「あの方を見なさい、あの方こそ世の罪を取り除く神の子羊です」とイエス様を紹介されて、イエス様に従いました。彼は兄弟のペテロを誘い、ペテロもイエス様の弟子となりました。続いてガリラヤへの途上、イエス様はピリポに出会い、弟子としました。ピリポは友達のアナナエルにイエス様を紹介し、アナナエルも弟子になりました。結婚式のカナという村は、アナナエルの故郷でもあったようです。

その結婚式は母マリヤの親族の結婚式だったのでしょうか。お祝いの途中で母マリヤは困っていました。一週間御馳走の続く結婚の祝宴に、喜びの席に欠かせない葡萄酒が切れてしまいました。結婚式は台無しです。たくさんの人を失望させます。花婿たちが恥をかきます。なぜそんなことになったのか、聖書には書いていません。用意が不十分だったのか、人々に出すペースを間違ったのか、理由はどうであれ、花婿たちの新しい家庭の、一生めぐい切れない傷になってしまうと、マリヤは困りはてていました。

イエス様はめぐみと真理に満ちた方です。イエス様に出会った人々は、そこに神様の独り子としての栄光を見ました。マリヤはイエス様に「葡萄酒がなくなりました」と言いました。興味深いのは、マリヤがイエス様にただ事実だけを伝えていることです。イエス様にこうしてほしい、という指図をせず、困っている事実を知っていただいています。祈りの本質ですね。

マリヤにイエス様は「婦人よ、わたしとあなたの間関係は何ですか。わたしのときはまだ来ていません」と答えました。少し驚きます。どういうことでしょうか。イエス様は、自分には関係のないことだ、とおっしゃっているのでしょうか。または、私はもっと大きなことのために世に来たので、家族のトラブルにはいちいち付き合えない、と言っておられるのでしょうか。

そうではありません。第一にイエス様は母だからということで願いを聞いてくださるのではなく、公けの救い主として、祈りを聴いてくださいます。イエス様は1章14節で言われているように、父なる神様の独り子としての栄光に輝いているめぐみと真理に満ち溢れたお方です。マリヤに、婦人よ、と女性に対する最高の尊重をこめた呼びかけをなさり、さらに、あなたとわたしの間関係は何ですか、と言われました。恵みのお方ですから、マリヤの祈りはマリヤの期待以上にこたえてくださいます。しかし真理のお方ですから、家族だから、肉親だから特別に、という理由で、マリヤの祈りを聴いて、うまく全能の神の御子イエス様が思い通りの問題解決をしてくれた、ということではありません。イエス様はご自分が来たのは身近な人々を

これまでのよしみで助けるのではなく、全世界の人々の罪を赦して神の子とするためでした。これはヨハネの福音書7章でイエス様の兄弟たちとの会話にも通じることです。

そうですね、私たちはイエス様に祈りを聴いていただく資格はもともと持っていません。どんな犠牲を差し出しても、神様が私のために動いてくださるということは期待すらできません。しかしイエス様はあなたや私に恵み深く、ご自分の十字架の犠牲をもって罪を赦して神の子どもにしてくださいました。真実で正しいお方であるので、あなたの罪をイエス様が赦すとおっしゃるみ旨は信頼できます。イエス様が恵みに満ち、そして真理のお方ですから、イエス様のお名前によって祈ることはイエス様のゆえに聞いていただけるのです。私たちが苦しみにあって悩む人生のピンチは、神様に向き直ってイエス様の赦しといのちにあずかるチャンスです。

イエス様はまた「とき」をご存じでした。マリヤからお生まれくださったのも、「ときがみちて」生まれた、とガラテヤ書4章4節にあります。そして母に「婦人よ」と呼ばれたイエス様は、ヨハネの福音書19章27節で再び母マリヤに語り掛けます。マリヤはそのとき十字架にかかっておられるイエス様のもとに来ていました。イエス様はこの「とき」のために世に来られました。人類の罪を背負い、またマリヤの罪も背負って神様に見捨てられるためです。マリヤにはそれはわかっているでも自分の息子イエスがそのように死ぬのですから複雑な気持ちでしたでしょう。イエス様は十字架の上からマリヤに、これからここにいるヨハネはあなたの子だ、と言われ、そしてヨハネに、これからマリヤはあなたの母だ、言われました。聖書は言います。その「とき」から、弟子のヨハネはマリヤを家に引き取りました。イエス様は「とき」をご存じです。そして救い主として、人の罪を背負って十字架で死んでくださるといふ「とき」のために、自分が遣わされていることを自覚しておられました。その中で母マリヤへの配慮の「とき」を忘れておられません。イエス様は恵みと真理のお方です。

第二に、イエス様の方法でお答えくださいました。イエス様は母マリヤの祈り求めたことについて、マリヤが思いつきも想像もしなかった方法で、神の御子として、恵みとまことをもって、愛と真実の配慮にみちたお答えをしてくださったのです。

考えてみてください。マリヤの心配と恐れは花婿が恥をかくことでした。イエス様はマリヤの求めを超えてむしろ花婿の評判が上がる結果を生むことを最優先されました。失態の原因に触れることなく、それはそっと赦して覆いました。イエス様の評判が上がることも控えます。わたしのときが来ていない、と言われましたが、ヨハネの福音書を読み進みますと少し後の12章で、イエス様が十字架におかかりになられる直前になると「栄光を受けるときが来た」と言われました。「わたしのとき」というのが私たちを罪から贖うための十字架の死に向かっていく「とき」でした。カナの村ではまだそのような救い主としての働きのときは来ていません。水を葡萄酒に変えて、水を汲んだ奉仕者以外はこの最高品質の葡萄酒は花婿が前もって用意していたものだったと思い、花婿の評判がよい噂になって広まっています。マリヤの心配は、イ

イエス様によってむしろマリヤの誇りになりました。イエス様は私たちの祈りにこたえ、イエス様の「とき」に、イエス様の方法で働いてくださいます。

第三に、イエス様のみわざは私たちに信仰をつくり、信仰を強めてくださいます。弟子たちはイエス様を信じた、と書かれていますね。数日前にイエス様に従ってきた弟子たちは、カナの婚礼にイエス様と一緒に列席して、マリヤの願い、イエス様のお答えと不思議なみわざを通して、人々においしい葡萄酒が配られた一部始終を見ました。彼らはイエス様が神の御子として恵みと真理に満ちている方だとわかり、イエス様を改めて信じたのです。私たちにもイエス様は日常の出来事の背後でお働き下さり、私たちの信仰を生み育ててくださいます。そしてときを定めて完成された十字架のみわざを、私たちが更に深く信じるように導いてくださいます。

これはイエス様の最初のしるしだと記されていました。きよめのための水を葡萄酒にかえたというしるしには深い意味がありました。きよめの水は旧約聖書の律法によるとけがれから身をきよめるものでした。旧約聖書ではまた、救い主があらわれると喜びの民は葡萄酒の祝宴をすると予告されています(アモス 9:13f)。イエス様も教会を花嫁とし、天国を小羊の祝宴としてご自分の血による贖いの喜びの祝宴としています(黙示録 19:6-9)。イエス様はこの水を葡萄酒に変えてくださいました。イエス様はご自分が十字架で流してくださった血潮をもって罪を赦し、私たちをきよめ、新しいいのちを与えてくださいます。律法による水のきよめはおわり、福音への信頼が私たちを新しいいのちへと導きます。

私たちが手を尽くし知恵を絞っても乗り越えることのできない人生のピンチに遭遇するとき、それはイエス様のお働きだけが示されるチャンスです。マリヤのように私たちの願いをイエス様のお名前によって父なる神様に知っていただき、イエス様が何をなさろうとしているかすべてを理解できなくても、日々自分の置かれたところで、家庭で、社会で、そして教会で、神様のみこころに感謝をもって従いましょう。水を汲んだ奉仕者がいましたね。奉仕者は、ディアコノス、奉仕をする者たちです。マリヤに言われてイエス様のおっしゃることすべてを行いました。水を汲み、世話役に渡しました。水かめはひとつがおうちのお風呂くらいの容量です。六杯分の水を汗して水源まで往復し満たしました。不平や疑問を発していません。水かめのふちまで水を入れた奉仕の姿勢から教えられます。私たちも祈りによって平安が与えられます。そして日々の使命に愛とまごころをもって人々と共に幸せを作り出していきます。この奉仕者だけがよい葡萄酒がどこから来たか知っていました。イエス様のみわざを間近で見っていたからです。試練の中で主イエス様に信頼して愛と真実に生きるとき、喜びさえも与えられます。

イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。ヨハネ 2:11

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあつて守ってください。アーメン

讚美歌 520 番 献金 献金感謝の祈り

1. 静けき 河の岸边を 過ぎ行くときにも うき悩みの 荒海を 渡り行くおりにも
※心安(やす)し 神によりて 安し
2. 群がる仇は たけりて 囲めど せむれど いざなう者 ひしめきて 望みを砕くとも ※
3. うれしや 十字架の上に わが罪は死にき 救いの道 歩む身は ますらおの如くに ※
4. 大空は巻き去られて 地は崩るとき 罪の子らは騒ぐとも 神による御民は ※**アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああ御栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏